

Overview of Industrial Statistics in Japan

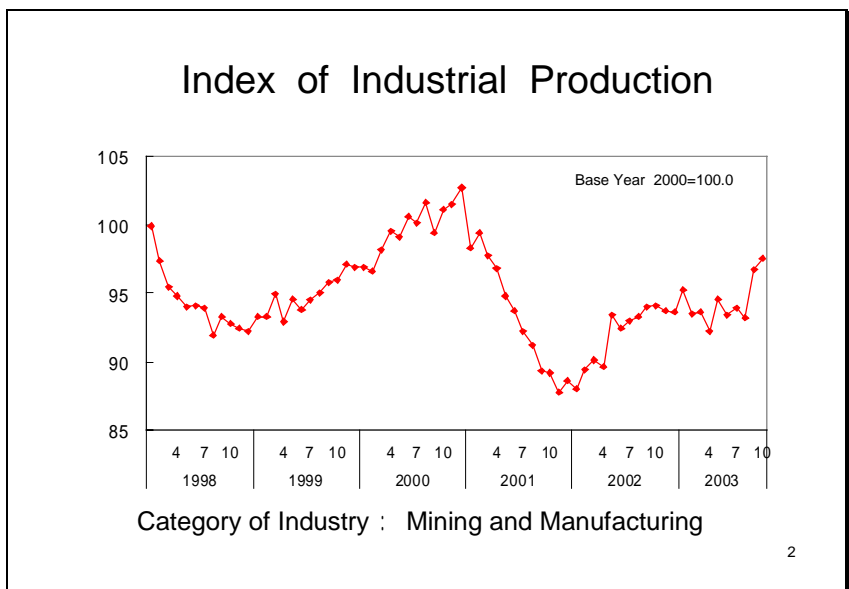
**At the Seminar on the Study on the
Development of Industrial Statistics in
Viet Nam**

December 16, 2003 Hanoi, Viet Nam

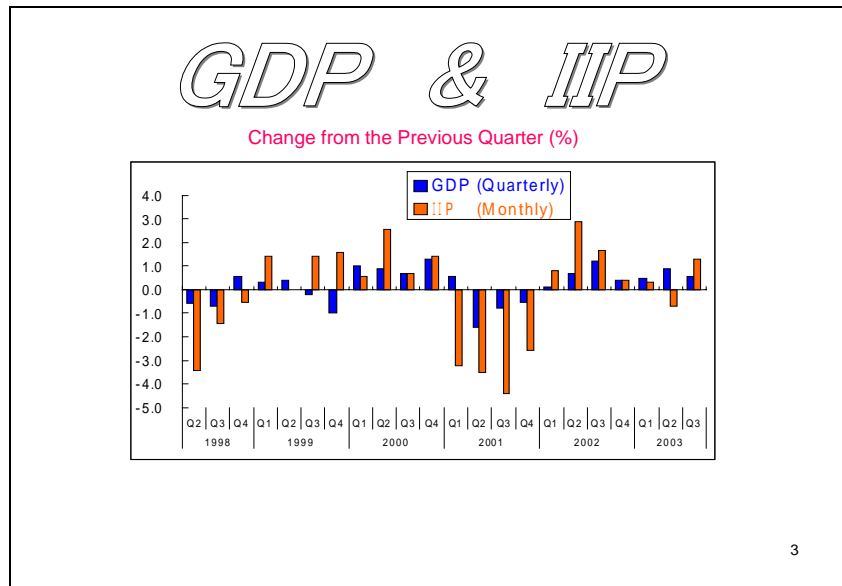
Research and Statistics Division
Ministry of Economy, Trade and Industry, Japan

1

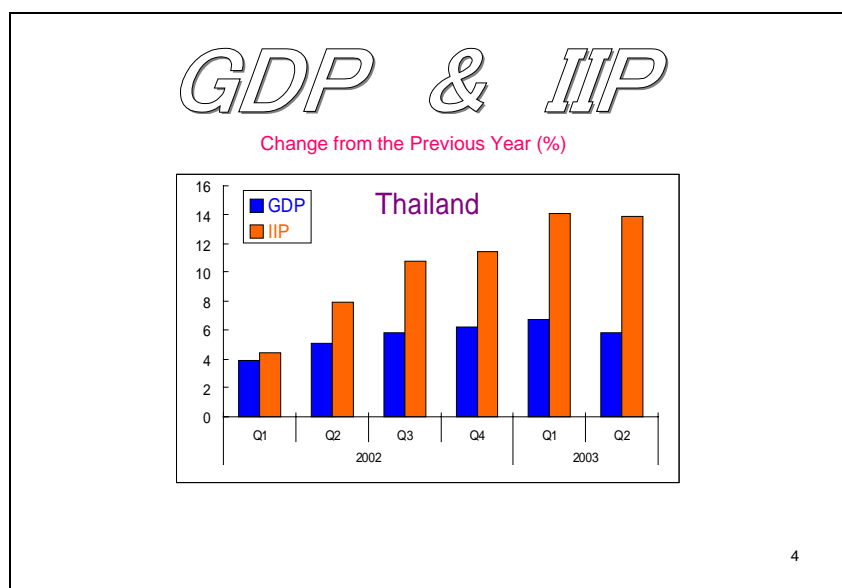
1. 自己紹介
2. 先ほど、「ベトナムの産業統計開発調査」を統計総局と協力して実施していくことに署名しました。
3. ここでは、日本の産業統計の概要について説明します。



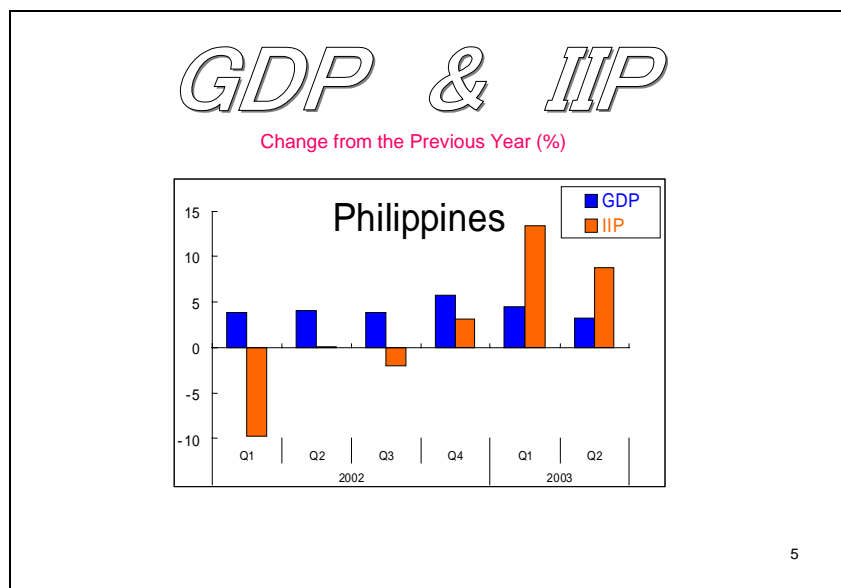
1. 私ども経済産業省は、鉱工業指数 = Index of Industrial Production という指標を作成しています。
2. 対象範囲は、鉱業と製造工業で、生産数量を指数化した指標です。
3. 日本国内では、「I I P」と呼ばれ多くの分野で幅広く活用されています。



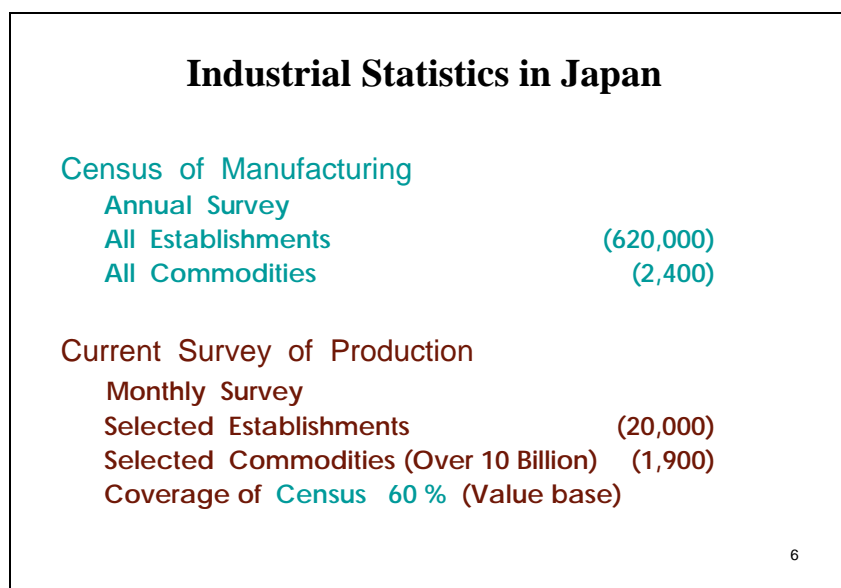
1. IIPが重宝されている理由は、いくつかありますが、最大の利用価値は国民所得・GDPとの相関がよいことです。
2. グラフは、GDPとIIPの四半期ごとの前期比です。
3. グラフにある22期のうち、GDPとIIPで符号が異なるのは5期だけです。
4. GDPは、対象とする四半期から2ヶ月後に公表されますが、IIPは翌月の月末に公表しています。
5. つまり、IIPは景気指標として速報性があることが特徴点です。
6. そのため、エコノミストはIIPの動きから景気分析やGDPの予測しています。経済産業省では経済政策を策定する際の参考データとして活用しています。
7. ここでは、産業総合しか表していませんが、IIPは、繊維工業とか輸送機械工業といった産業別の指数値を作成・公表していますので、各産業の景気動向なども分析しています。



1. 日本以外の国のGDPとIIPの相関関係をみてみましょう。
2. これは、タイのグラフですが、だいたい似ているといえます。



1. これは、フィリピンですが、最近の GDP と IIP の動きの相関は、そんなに悪くないです。
2. タイの IIP もフィリピンの IIP も、JICA のスキームを活用して経済産業省が協力して開発・改善されました。
3. 本日、署名したプロジェクトの最終ゴールは、この IIP をベトナムで作成することです。



1. 次に、IIPの基礎データである日本の産業統計について説明します。
2. 大きく分けて2つの基礎統計があります。
3. 一つは毎年実施している工業センサスです。調査の対象は、年によって異なりますが、全ての事業所、約62万事業所が対象です。
4. もう一つは毎月実施している生産動態統計です。毎月調査なので全事業所を対象にした調査はできません。代表的な品目で、代表的な事業所を選んで調査しています。そのため、事業所数は約2万と少ないですが出荷金額ベースで全事業所の60%をカバーしています。
5. IIPは、毎月の生産動態統計の数量データを基に作成されています。

Census of Manufactures

Annual Survey as of December, 31

Major Items surveyed

1. **By Industry (By Establishment)**
Cost of Raw Materials
Value of Shipments
Value added is calculated item
= Production - Raw Materials
2. **By Commodity**
Quantity Number of Shipments
Value of Shipments


7

1. 工業センサスでは、事業所単位の原材料購入額、出荷額などを調査しています。
2. 付加価値額は、生産額から原材料購入額を差し引いて求めています。
3. また、品目別のデータとして、出荷数量と出荷金額を調査しています。

Census of Manufactures

Example : ITO Factory

Raw Materials
100,000 T.JPY



Output

Radio	2,000 set	50,000 T.JPY
TV	1,000 set	250,000 T.JPY
Total Shipments		300,000 T.JPY

Survey by Commodity

Quantity	Radio	2,000 set
	TV	1,000 set
Value	Radio	50,000 Thousand JPY
	TV	250,000 Thousand JPY

Survey by Industry (by Establishment)

Cost of Raw Materials	100,000	Thousand JPY
Value of Shipments	300,000	Thousand JPY
Value Added = 300,000 - 100,000	= 200,000 T.JPY	

8

1. 例えば、「ITO工場」の場合をみてみましょう。
2. 事業所ベースのデータとしては、赤字で示した原材料購入、出荷額、そして付加価値額が把握できます。
3. 品目ベースのデータとしては、青字で示した出荷数量、出荷金額が把握できます。

Current Survey of Production

Monthly Survey

Major Items surveyed

Quantity Number of Production
 Quantity Number of Shipments
 Quantity Number of Inventory
 Value of Production
 Value of Shipments
 by Commodity

9

1. 次に、毎月実施している生産動態統計について説明します。
2. 主な調査項目は、品目ベースの生産数量、出荷数量、在庫数量と生産金額、販売金額です。

Current Survey of Production

Example : ITO Factory

Production Number	Unit			
	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
Radio	600	400	300	200
TV	40	60	70	80

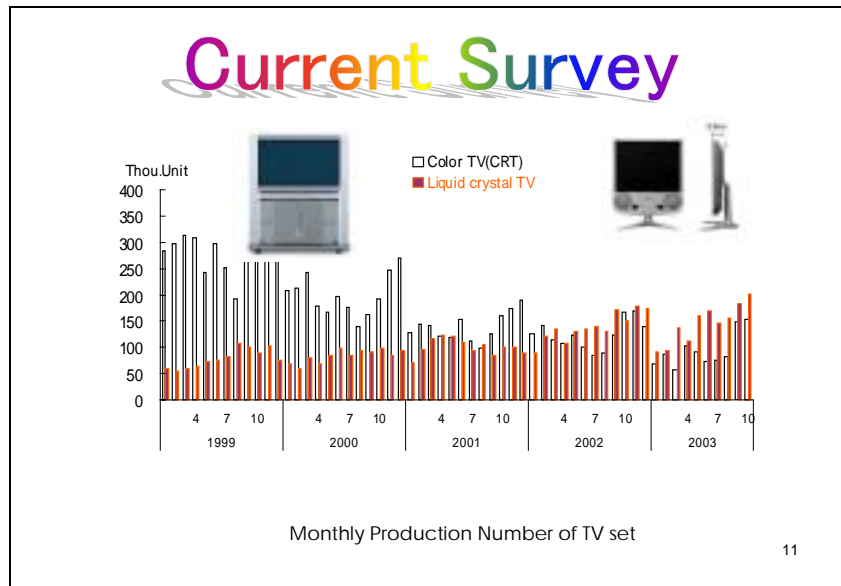
Production Value	JPY			
Radio	15,000	10,000	7,500	5,000
TV	10,000	15,000	17,500	20,000
Total	25,000	25,000	25,000	25,000

Commodity base is important!

10

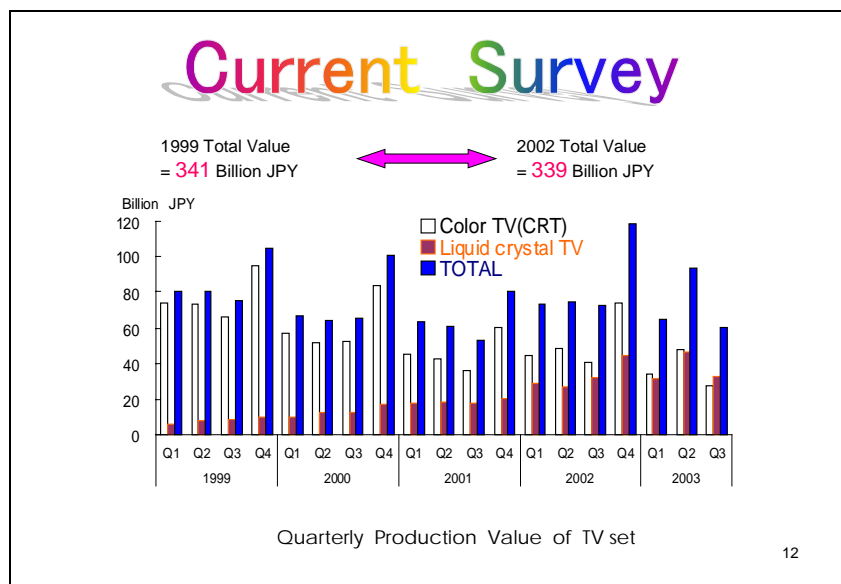
1. 生産動態統計の場合も、「ITO工場」を例にしてみます。
2. 品目別では、ラジオとテレビの生産数量は、月によってかなり変動しています。
3. 同様に、ラジオ、テレビの金額も変動しています。
4. しかし、「ITO工場」としてラジオとテレビを統合した合計金額は 25,000 で変化していません。
5. このように事業所単位に金額で調査していると、その工場で生産している品目構成の変化を的確に把握できないケースが出てきます。

(注) ベトナムの動態統計は、事業所の金額データが基本で、これを品目別・数量ベースの調査に切り替えるのが、本プロジェクトの最大課題。



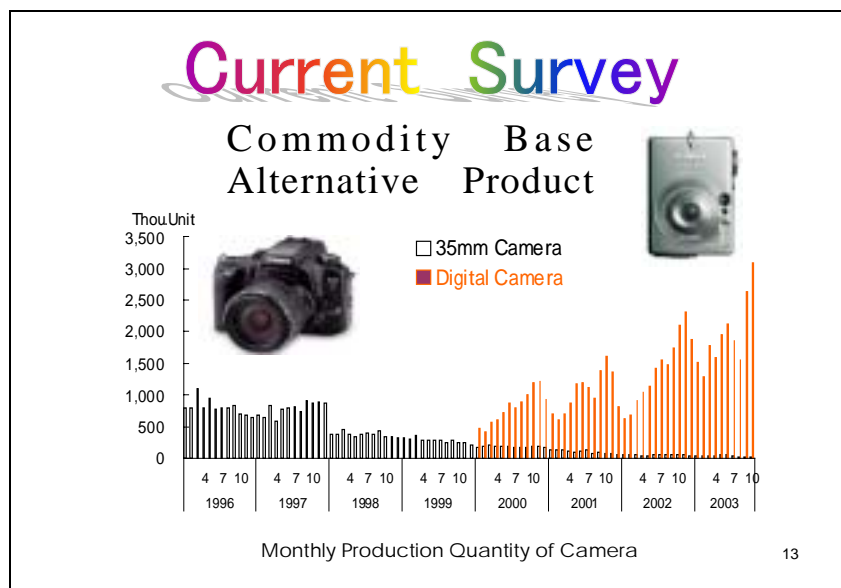
11

1. このグラフは、日本の生産動態統計の数字から作成したテレビの生産量の推移です。
2. 黒い方は、ブラウン管を使ったカラーテレビの生産量の推移で、赤い方は、薄型の液晶テレビの生産の推移です。
3. 品目別といっても、テレビというレベルではなく、ブラウン管使用のカラーテレビと液晶テレビのレベルにブレイクダウンして調査しています。
4. その結果、近年、カラーテレビの生産は減少してきて、一方、液晶テレビの生産が拡大してきていることがわかります。

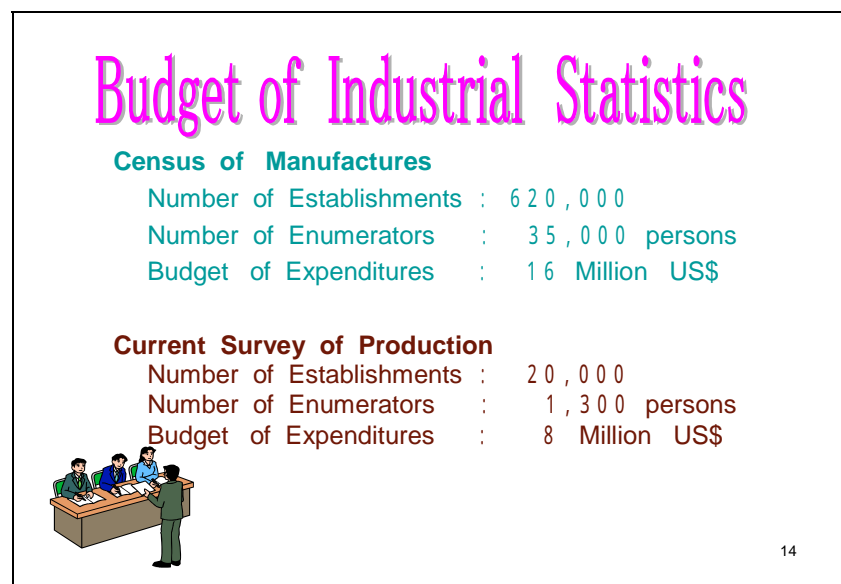


12

1. 先ほどのグラフを金額で書いてみたのが、このグラフです。
2. 金額ベースでも、黒色のカラーテレビの減少と赤色の液晶テレビの増加がわかります。
3. しかし、1999年の合計金額と2002年の合計金額は、ほとんど同じレベルになっています。
4. したがって、品目もある程度の細分化が必要であるといえます。



- 1 . このグラフは生産量の推移で、黒い方がフィルム式のカメラで、赤い方がデジタルカメラです。
- 2 . フィルム式は衰退してきて、デジタルカメラが急激に増加してきていることがわかります。
- 3 . デジタルカメラですが、グラフは2000年1月からしかありません。それ以前に生産がなかった、からではなく、生産動態統計としての調査が始まったのが2000年1月からなので、それ以前のデータがありません。
- 4 . このように、生産動態統計では毎年、調査する品目の入替えを行っています。



- 1 . いままでは、工業センサス、生産動態統計の特徴について説明しましたが、ここでは予算の話をちょっとだけ紹介します。
- 2 . 工業センサスは、対象数約62万事業所で、35,000人の調査員が、調査票の配布、回収を行っています。事業所数の62万という数字は、ベトナムの事業所数56万と近い数字です。
- 3 . 生産動態統計は、対象数約2万事業所で、1,300人の調査員が調査票の回収を行っています。

Budget of Industrial Statistics



1, 000 US\$

15

1. 予算の金額は、日本円ベースなので、あまり参考にならないかもしれませんが、バイクに換算してみたいと思います。
2. このバイクは、日本で開発され中国で生産されているバイクです。近い将来、日本で開発されたバイクがベトナムで生産されることになるかもしれませんね。
3. このバイクは、1台約1,000米ドルです。

Budget of Industrial Statistics



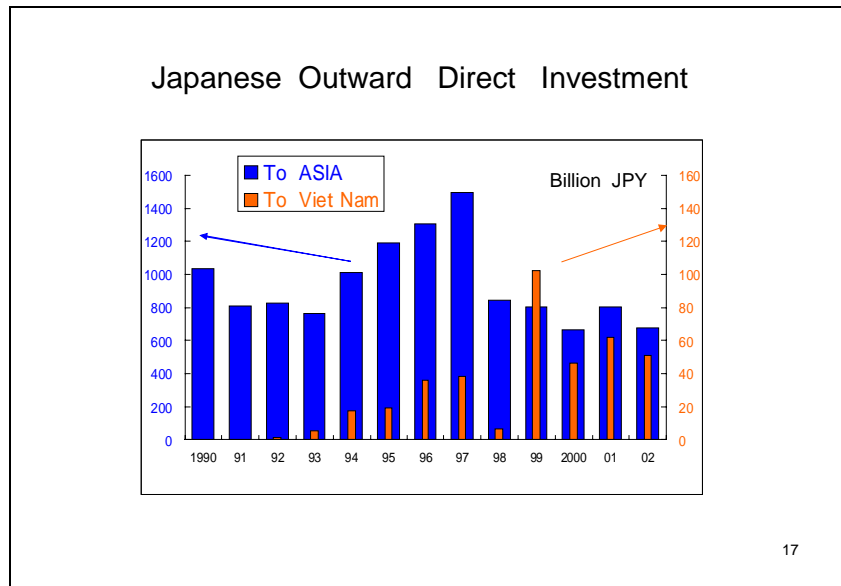
Census Survey 16,000 Units

Current Survey 8,300 Units

Per Year

16

1. このバイクで換算すると、工業センサスの予算は16,000台に相当します。
2. 生産動態統計は、8,300台に相当します。



1. バイクの話をしましたでしたが、日本企業の直接投資についても一言説明します。
2. このグラフは、日本企業のアジアへの直接投資の推移です。
3. 青がアジア全体、オレンジが対ベトナムです。ベトナムのスケールは、アジアの10倍になっています。
4. 日本からアジアへの直接投資は、1997のタイの通貨危機を境にして減少しましたが、ここ数年はほぼ同じ水準で推移しています。
5. 一方、ベトナムへの直接投資は、1999年にアジア全体の10%以上のシェアを記録し、その後も8%前後で推移しており、今後の拡大が期待されるところです。

**To Develop the Monthly
Industrial Statistics
Is Useful for**

Economic Policy Making

Economic Analysis

Investors of Domestic and Foreign

18

1. 産業統計を毎月作成し、さらにIIPを作成・公表していくことは、ベトナムにとっても大変大きな意義があると考えます。
2. 速報性のある景気指標は、政府内での経済政策策定や経済分析に有効活用されるでしょう。それが、ベトナムの経済発展に繋がっていくものと考えます。
3. さらに、グローバルスタンダードな経済指標が作成されることで、国内、海外のエコノミストや投資家にも適切な情報を提供でき、雇用創出にも寄与することができるでしょう。



1. 本日、「ベトナムの産業統計開発調査」の基本的枠組みについて合意、署名できたことは喜ばしいことです。
2. 本格的な開始は、年明けになりますが、経済産業省として、よりよい産業統計作成に向けGSOに協力していくことを表明します。